

# 明日へ！

熊本地震により、多くの尊い命と貴重な財産が奪われました。お亡くなりになった方々へ追悼の意を捧げますとともに、被災された町民の皆さまへ心からお見舞いを申し上げます。  
今月号では町内の被災状況と「防災・減災」の大切さ、全国各地からのさまざま支援をお伝えします。

明日への希望を忘れず、復興へ。  
負けんばい、熊本。

4月14日午後9時26分ごろ、熊本地方を震源地としてマグニチュード6.5の地震が発生しました。県内の最大震度は7。菊陽町では震度5強を観測しました。町は13の避難所を開設し、1,400人を超える町民が学校の体育館や町民センターなどで不安な一夜を過ごしました。

### 「危ないけん、出る」

多くの町民が「余震は続いていても、収まっていくだろう」と安心して床についていた4月16日午前1時25分、マグニチュード7.3の強い地震が発生。「ドン！」と上へ突き上げるような振動の後、



1 家の柱や基礎など全体的に傾いた家屋。住民は避難し、全員無事 2 3 家屋や小屋のブロック塀崩壊 4 役場の事務室内。キャビネットから書類が落下し、足の踏み場のないほど散乱した

### 過去に例のない形

その夜は自宅の倒壊や落下物の恐れから車の中で過ごしたといいます。「16日の地震で柱はゆがみ、壁はめくれ、大きな亀裂が入った。何から手を付ければいいのか分からない」と肩を落とします。「想定外」の本震は被害を拡大させ、心にも傷跡を残しました。

5月19日午後1時現在、震度1以上の地震は1,500回発生しています。気象庁は熊本地震発生から1カ月後の5月14日、今後少なくとも1カ月程度は最大震度6弱程度の揺れを伴う地震に警戒するよう呼び掛けました。

## 平成28年熊本地震経過一覧(菊陽町) 5月15日現在

- 4月14日 21:26 震度5強(前震)発生
- 22:00 避難所開設
- 22:07 震度5弱発生
- 22:15 菊陽町災害対策本部設置
- 4月15日 2:30 「水道水の飲用不適」注意喚起
- 4月16日 1:25 震度6弱(本震)発生
- 自衛隊出動要請(午前4時ごろ着)
- 1:45 震度6弱発生
- 4:05 南小北側県道沿いの石垣崩壊判明
- 5:00 家屋倒壊(3カ所)判明
- 9:00 民間の福祉避難所開設
- 9:48 震度5弱発生
- 11:30 役場・光の森町民センターで炊き出し(おにぎり)開始
- 光の森多目的広場で給水開始
- 12:23 役場で給水開始
- 【一般路線バス】運休(18日再開)
- 【阿蘇くまもと空港】閉鎖(19日再開)
- ※救援物資輸送で滑走路は24時間運用。
- 4月17日 9:00 災害ごみ置き場開設(下津久礼し尿処理場跡地)
- 【小中学校】4月25日まで休校
- 【学童保育】4月25日まで休所
- 【日曜開庁】中止
- 4月18日 【要援護者宅を巡回訪問開始】香川県、福岡県派遣の保健師チームが健康面・精神面のケア
- 4月19日 15:00 自衛隊による仮設風呂供用開始(5月10日まで)
- 【巡回バス】自衛隊の仮設風呂と避難所を結び臨時バスとして使用(5月3日以降順次再開)
- 4月21日 8:01 町内全域大雨洪水警報発令
- 12:30 避難指示発令(戸次区76世帯209人)
- 4月22日 9:00 災害ごみ置き場開設(さんふれあ駐車場)
- 菊陽町災害ボランティアセンター開設
- 4月23日 7:00 武4町内集会所で給水開始
- 4月24日 8:00 「水道水水質基準適合」と防災無線
- 4月25日 9:00 り災証明書申請受付・発行開始
- 4月26日 【小中学校】再開(9日以降、通常給食再開)
- 4月30日 8:30 みなし仮設・応急修理相談窓口開設
- 5月11日 12:00 自衛隊撤収
- さんふれあで炊き出し(おにぎり)開始
- 5月15日 9:00 日曜開庁再開
- 17:00 災害ごみ置き場終了(28・29日は開設)



■平成28年熊本地震の概要

○前震

日時 4月14日 午後9時26分  
震源地 熊本県熊本(北緯32.4度、東経130.4度)  
深さ 11\*  
規模 マグニチュード6.5  
最大震度 7(菊陽町 震度5強)

○本震

日時 4月16日 午前1時25分  
震源地 熊本県熊本(北緯32.4度、東経130.4度)  
深さ 12\*  
規模 マグニチュード7.3  
最大震度 7(菊陽町 震度6弱)

■最大震度別回数(5月14日現在)

県民の83%が震度6以上の揺れを経験。

町村名	菊陽町	熊本県
最大震度別	7	0
回数	6強	0
	6弱	2
	5強	1
	5弱	2
	4	18
	3	50
	2	132
1	293	
累計	497	1,446

■被害状況(5月18日13:30現在)

町村名	菊陽町	熊本県
人的被害	死者(人)	0
	震災関連死(人)	0
	行方不明者(人)	0
	重傷者(人)	3
住家被害	軽傷者(人)	15
	全壊(棟)	13
	半壊(棟)	257
非住家	一部損壊(棟)	2,479
	公共建物(棟)	5
	その他(棟)	160

■避難所数・避難者数 16カ所・推計8千人(最大時)

■仮設トイレ設置数 40基(最大時)

■仮設風呂利用者数(4月19日～5月10日) 5,600人

■り災証明書発行状況(5月18日現在)

- ・り災証明申請件数 2,881件
- ・証明書交付件数 2,273件(未交付608件)
- ・要調査件数 1,050件
- ・調査済み件数 997件(未調査53件)



1



1

二度の地震と続く余震が町に大きな傷跡を残した



3



2



3



4



5



4



2

1 4月17日、役場前に設置された陸上自衛隊と大津菊陽水道企業団の給水車に大勢の町民が並んだ。奥の町民グラウンドには車中泊をした避難者の車がずらりと並ぶ 2 役場正面玄関前の崩落した招魂碑 3 菊陽南小学校北側県道沿いの石垣が崩れ、一時通行止めに 4 全壊した小屋

1 2 家屋が傾き、柱やふすまが折れ窓ガラスが割れた室内 3 4 16日の本震で避難してきた町民。町民グラウンドや杉並木公園などで車中泊した人も。16日は避難者約8千人が眠れぬ夜を過ごした 5 壁やはりが落下した菊陽中学校武道場。各小中学校が被災した





富田 富士子さん (駅前)

目が覚めたとき真っ暗でびっくり。慌てて出ようとしたら戸が開かなくてパニックになりました。ようやく違う窓から外に滑るように出てぼうぜんとしていました。しばらくしたら隣の人に来て「一緒に車の中に入れて」と言ってくれたんです。余震もひどかったから怖かったですね。今まで生きてきて初めてのことでした。

役場や消防団、近所の人や食料や水を持って来てくれて助かりました。菊陽町社会福祉協議会の配食サービスもすぐに来てくれ、栄養たっぷりでおいしかったです。スーパーもコンビニも品物が何もなかったから、親戚は荒尾市まで買いに行ったりです。ボランティアも来てくれて、落ちた壁や倒れたタンクを直してくれました。足も悪いから助かりました。あれから水はためるようにしています。地震は突然来るけど怖いですね。こんなときだけでも周りの優しさに救われました。

02 自助・共助

「地震は突然来るけん、怖かね」

周りの支えと優しさに安心



余震の続く中、安否確認。温かい弁当を届けたい

菊陽町社会福祉協議会の配食サービス。余震が続く中、利用者70人の安否確認をした栄養士の松山真紀さん(左)。給食室も被災したため、片付け後、ガスや水の使用を各会社に電話やFAXで懇願。17日午後4時～8時まで利用者に電話をし続け、避難状況や食事の有無、配食が必要かを確認した。17日午後10時30分にガス会社の職員に来てもらいガスが戻った。食材を調達して19日から普段通りの配食を再開。利用者から「温かいご飯ありがとう」と感謝された。松山さんは「みんなを支え合った」と笑顔を見せた。



自主防災組織

地域の皆さんが防災活動に取り組む「自主防災組織」を設立して、地域の防災力を高めませんか。

- 対象組織 小学校区や区・自治会など
- 新規設立補助 5万円
- 活動活性化補助 町：毎年4万円
- 県：平成27年設立分まで2万円(2年目、3年目)
- ☎ 総務課 交通防災係 ☎(232)2111

災害時の非常持ち出し品リスト

最低3日分の水と食料を準備し、日ごろから点検しましょう。

- 水(1人1日3ℓ)
- 貴重品
- 非常食
- 懐中電灯
- ラジオ
- 電池
- 常備薬
- 衣類
- 軍手
- 生理用品
- タオル
- ウェットティッシュ など



災害に強い地域が命を守る

防災・減災

災害が発生したときは、家庭や個人の備え(自助)と助け合い(共助)による地域の防災力が重要です。熊本地震のときも「お互いの顔が見える関係」が大切な命を守りました。

命を守る防災対策を

災害は、いつどこで起こるか予想しづらいもの。災害が起こったとき、被害を最小限に食い止めるためには、日ごろからの備えが大切です。

町は昨年9月、(株)ゼンリンと菊陽町総合防災マップを作り、10月に全世帯へ配布しました。防災マップには町内全域の水害・土砂災害の危険箇所や避難場所、防災対策を掲載。日ごろから家庭や地域で災害時の避難場所や連絡方法を具体的に話すことが重要です。

共助の備え

広範囲な災害が起こった場合、町や消防署などの機関だけでは十分な対応ができない可能性があります。地域の皆さんが協力して情報の伝達、避難誘導、安否確認、救護活動に取り組むことで被害は軽減します。

町は「自主防災組織」の設立と活動に補助金を交付しています。立ち上げ方法や活動の助言、そろえる物品の紹介など地域の防災活動を支援しています。ぜひ活用してください。

01 自助・共助

日ごろの備えと人の温かさが命をつなぐ

「用意して備えることが大事」

たくさんの友人から「そこは大丈夫なの」と心配する温かいメールや電話が来ました。私は東日本大震災を経験し、家族で菊陽町へ引っ越してきました。今回も怖かったですが、人の温かさを感じ、とても心強かったです。

子どもが小さいので14日も16日も必死。今は落ち着いたので「周りを助けたい」という気持ちです。一度震災を経験していたので必要な物は分かっていた。水や非常食など最低3日

分は日ごろから用意することが大事です。自分は大丈夫だと思うか、用意して備えるか。災害はないって思いたいたいが、「備えあれば憂いなし」。今からでも準備してほしいです。

断水時に火事が起きていたらどうなっていたらと思う。以前住んでいた地域には常にプールに水がたまっていました。公共施設の災害への備えも必要だと思います。この震災を次につなげていきたいですね。



木原 教子さん (新山)



危険箇所や避難場所、防災対策を確認。町ホームページでも見られます



県防災情報メールが最新の気象情報、避難情報などあなたの携帯へ安心をお届けします



情報はテレビやラジオ、町ホームページなどで積極的に集めましょう





2



3



1



6



5



4



8



9 1 2 3 町婦人会や他自治体、消防団と協力して支援物資やおにぎりなどを配付 4 毎日開催された災害対策本部会議 5 リ災証明書やみなし仮設住宅の申請窓口 6 家屋の被害調査 7 健康状態を確認する保健師 8 仮設風呂を利用する被災者 9 災害ごみ置き場



復興と被災者支援

# 災害対応

町は消防団や自衛隊などさまざまな機関、団体、人々と連携して町民の安否確認や避難所運営、医療活動など町の復旧・復興に向けて取り組んできました。全ての皆さんの支援に深く感謝します。



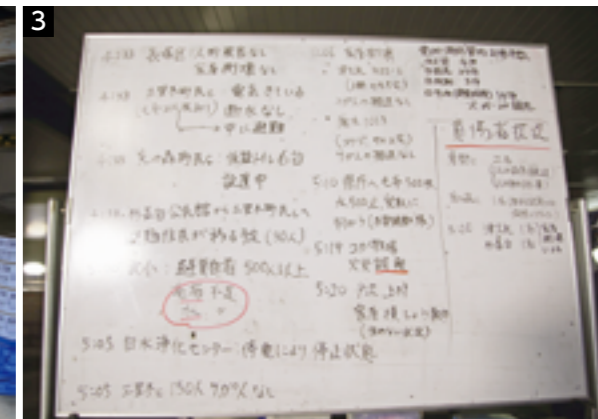
1

2

1 けがをした町民に応急処置を施す町保健師  
2 役場正面玄関で避難者へ毛布を配布する町消防団や町職員(16日午前2時55分) 3 正面玄関前に設置したホワイトボードに災害対策本部が消防団や区長などから集めた情報を書き込んだ 4 支援物資をトラックから運ぶ陸上自衛隊の皆さん



4



3

熊本県民への応援メッセージ 菊陽町図書館や災害ボランティアセンターに寄せられた応援メッセージを一部紹介します。

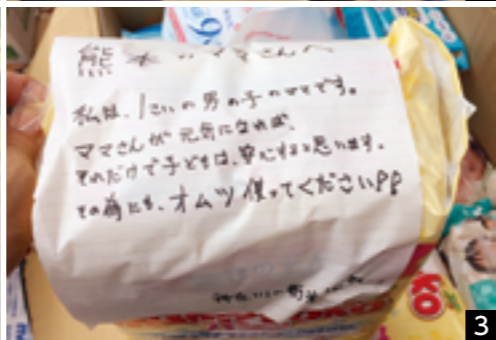
- 余震が長引き、気の休まる暇もなくどれだけ疲労なされたことか…。早く落ち着けることを願います。
- 日本国民全てが復興を願っています。本当に大変でしょうが、頑張ってください。
- 取り戻そうふるさとの恵み。こんくりゃあんこつには負けんばい!
- こぎゃん時だけんどぎゃんかせんといかんとです。頑張ろう熊本
- 今できることを一つ一つやっていくこと。前を向いてしっかり一歩前進。がんばろう熊本!
- 今は辛いかもしれないけど、応援してくれてる人がたくさんいるので、がんばるばい、熊本。
- 遠い日常。でも進めば必ずたどり着ける。フンバルバイ熊本県民
- 平凡な毎日に感謝。隣近所の助け合いとてもありがたかったです。共にガンバります!





地震の約2週間前に生まれた赤ちゃんを抱く女性。避難所などで出会った町民同士支え合う姿があった

今どきボランティア  
まさか熊本で地震が起こるなんて！  
誰もが予想していなかった大規模地震。「いつ起こるか分からない災害」は「明日起こるかもしれない災害」です。  
ガス・水・電気などのライフラインが使えなかったら、携帯電話が通じなかったら、道路が寸断され車が使えなかったら……。災害は、普段、当たり前に使っているものを容赦なく奪っていきます。  
「もしも」の時に備え、一人一人が防災・減災の意識を持ち、日ごろから隣近所で声を掛け合い、地域の防災力を高めることが大切です。  
尊い命を守るために、今できることを考えてみませんか。今こそ一つになるとき！



1 モデルのすみれさんが三里木保育園と第二熊本菊陽学園を訪れ、ダンスと歌で励ました 2 味千ラーメンの炊き出しに舌鼓 3 全国から届いたたくさんの応援と支援物資 4 東京や福岡から体操やアロママッサージのボランティアが避難所を回った 5 配給ボランティア 6 笑福(光の森)が野菜たっぷりのタイピーエンをふるまった 7 タレントの千秋さん協賛のオムライスが避難者に振る舞われた

ボランティア活動していた町民へインタビュー



(左から) 久保田航世さん(新山)、石原達朗さん(新山)、小崎勇志さん(光2町内)、久保田修世さん(新山)

生まれ育った菊陽町のために何かしたいと思ってボランティアに参加しました。今後、家族と避難場所を確認し、体験したことをみんなに伝えていきたいです。



安藤摂さん(宮ノ上)

がれきや瓦の片付けなどの活動をしました。「ありがとう」と言われてうれしかった。これからも近所の人に声を掛け、励まし合っていきたいです。



# 広がる支援の輪

## 心に笑顔を

菊陽町社会福祉協議会は菊陽町災害ボランティアセンターを4月22日に開設しました。5月15日現在、町内や全国各地から1,600人が被災者の生活環境の回復に当たりました。ボランティアはチームに分かれて、がれき撤去や災害ごみ置き場への運搬、家屋の清掃作業などを実施。汗まみれになりながら全力を尽くしました。依頼した町民は「ボランティアさんに手伝ってもらって、とてもきれいに片付けました。良かったばい！」と感謝していました。  
埼玉県から自家用車で訪れ、活動していた小俣三男さん(66)は「一つ一つに思い出があるものの。自分の家だったらと思うと気持ちも想像できる。ボランティアが集まると支援の輪も広がります」と話しました。  
広がっていく支援の輪に多くの人が救われました。



1 2 3 荷物の片付けやがれきの撤去、清掃など約500件のニーズに応えたボランティア。依頼者は「1人じゃできない。とても助かります」と感謝していた 4 避難所でスポーツクラブきくよう、ノルディックウォーキング協会、さわやかスポーツの有志15人が熊本弁のラジオ体操で心と体をほぐす 5 「思い出がいっぱい」を歌う元H<sub>2</sub>Oの中沢けんじさん 6 ロアッソ熊本の有志8人が菊陽中部小学校を訪れ、サッカーで元気と笑顔を届けた



全国からたくさんの心温まる応援がありました。「何かしたい」と頑張る町民の姿もありました。人と人が助け合い、支援の輪が広がりました。励ましを大きな力に！